

凡 例

1. 本報告書は、令和2年(2020)10月16日(金)に奈良文化財研究所大会議室において開催した令和2年度奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会“歴史的脈絡に因む遺跡の活用 一儀式・行事の再現と地域間交流の再構築一”に関する報告書である。
2. 本研究集会は、「記念物の保存・活用に関する調査研究」の一環として、奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室が企画・主催し、内田和伸(遺跡整備研究室長)・高橋知奈津(遺跡整備研究室研究員)が担当した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者は発表者・コメンテーター・事務局の計12名に限った。
3. 本報告書『歴史的脈絡に因む遺跡の活用 一儀式・行事の再現と地域間交流の再構築一』の「Ⅰ 研究報告」に収録した論考は、上記の研究集会において発表した内容に総合討議での議論を踏まえて各発表者が加筆修正したもので、発表者の所属は、研究集会開催時点のものである。「Ⅱ 事例報告」は、文化庁のLiving History促進事業の採択団体や韓国の事例等から編者が選んで原稿依頼したもので、各報告者の所属は令和3年2月時点のものである。「Ⅲ 資料」は、文化庁HPからLiving History促進事業の関連資料を抜粋したものである。文化庁文化資源活用課の水野歌子氏にはいくつかの点で大変有意義なご教示を頂いた。記して謝したい。
4. 本書の編集は内田和伸が行い、渡邊佳奈の助力を得た。英文目次はEdwards Walterが校閲した。